

# 教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No.8

第 8 号 2012 年 2 月 29 日発行

## 目 次

- ・教育開発部門の活動（新任教員FD研修会/FD合宿研修会）----- 1
- ・外国語部門の活動（A0入試、推薦入試Iの合格者に対する入学前教育での対面授業/TOEIC試験/他）----- 2
- ・健康スポーツ部門の活動（健康スポーツ科学実技の種目選択に関する調査/スキー実習安全講習会/他）--- 3
- ・教職教育部門の活動（教員免許更新講習/教職ポートフォリオのスタート準備/他）----- 4
- ・関係教員名簿

### 教育開発部門の活動

#### ●平成23年度の新任教員FD研修会（6月17日）

平成23年度の新任教員FD研修会を、平成23年6月17日の15時15分から約3時間にわたって、共通教育棟3階第一会議室で実施しました。参加者は15名でした。以下、研修会の概要を報告します。

まず、本名教育担当理事より、新任の先生方に対して、研修の重要性を説明し、将来の鳥取大学の教育を担う教員として期待している旨の、開会挨拶がありました。

自己紹介のアイスブレイキングの後、田畑教授がFDの基礎としての「教示スキル」について、授業デザインの総論、授業運営をうまくするために学生とのコミュニケーションをどう取るか、また教材・教具をどう活用するかといった具体的「スキル」のそれぞれについてレクチャーを行い、その後、受講者グループごとに「専門当てクイズ」を実施しました。

第2部として、教育開発部門の桐山准教授が、大学・学生を取り巻く状況と、現代の学生気質、また高等教育のパラダイム転換、学士課程教育に関する三つの基本方針に基づいて質の高い大学教育が求められていること等、について説明しました。

休憩を挟んで、第3部として、工学研究科（教育開発部門・兼任）の吉野准教授が、「専門科目」の教授方法について、高校の物理の教科内容の変化を把握して、学生の予備知識に対応

するなど、きわめて具体的な事例を挙げて、「わかりやすい講義」実践の方法を説明しました。

最後に、受講者に、本研修会についての感想や意見を述べてもらうアンケートを行い、閉会しました。

#### ●平成23年度FD合宿研修会（10月21日～22日）

平成23年10月21日～22日の二日間にわたり、本年度のFD合宿研修会を大山共同研修所において実施しました。今回は、「学生について総合的に知る」という統一テーマを設定し、情報提供とワークショップを行いました。主催者・研修者・事務スタッフ合わせて延べ21名の参加者がありました。以下に、概要を報告します。

初日21日、15時過ぎより、趣旨説明と、本名教育担当理事の開会の挨拶のあと、3名の先生方から、「学生の実態について」というテーマで、情報提供のための講演をしていただきました。まず、入学センターの三宅貴也教授には、「“入試状況”から見た学生の実態」と題して、センター試験の受験状況や新入生アンケートから見た鳥取大生像に関する情報をご提供いただきました。続いて、保健管理センターの三島香津子准教授から「学生の心身の健康」と題して、相談を受けに来る学生の実態と日常の対処の仕方についてのお話を伺いました。三番目に、キャリアセンターの長尾博暢准教授から「キャリア教

育・キャリアガイダンスとFDの架橋を考える」と題して、社会が学士に求めるものをキャリア教育全体の中に位置づけること、の重要性についてご説明いただきました。夕食後は、懇親会を兼ねた自由な討論会となり、大いに盛り上がりました。



二日目 22日の午前中、2件の報告とワークショップを行いました。まず、工学研究科（教育開発部門・兼任）の吉野准教授から、「学習面から見た鳥大生の実態と教育活動改善の試み」と題して、理系専門科目の教授経験を通しての改善の工夫をご紹介いただきました。続いて、教育センター・授業改善推進室室長の武田（修）教授から、「〈授業改善推進室〉の設置と活動状況」と題して、希望する教員の授業の録画撮りとその後の研究会実施について、報告していただきました。最後に、参加者全員が三つの班に分かれ、二日間にわたる講演・報告を活用する方法について、ワークショップ形式でディスカッションを行い、班ごとに議論の結果を発表しあって、まとめとしました。

なお、この研修会の詳しい内容は、平成24年4月発行予定の「わかりやすい講義をめざして(14)」に掲載します。関心をお持ちの方は、是非、この報告書をご覧ください。

（部門長：田畑博敏）

### 外国語部門の活動

#### ●A0入試、推薦入試Ⅰの合格者に対する入学前教育における対面授業（英語）の実施（11月11日、12月22日）

平成24年度のA0入試、推薦入試Ⅰの合格者に対する入学前教育が入学センター主催で行

われ、教育センターからは、外国語部門の福安教授（11月11日）、小林（昌）准教授（12月22日）がそれぞれ英語の対面授業を行いました。講義の主な内容は、入学後の英語カリキュラムの説明、TOEICの概要等で、福安教授は実際にコンピュータを使って、『コミュニケーション英語B』（1年前期）で使用するアルク社の学習ソフト（NetAcademy2）についてのデモンストレーションを行いました。また、小林（昌）准教授もTOEICの意義や単位との関係について説明し、入学後の授業への真剣な取り組みの重要性を強調しました。

#### ●1年生、2年生に対するTOEIC試験の実施（11月19日、12月17日）

2年生と1年生が、それぞれ11月19日および12月17日にTOEICを受験しました。1年生にとっては5月に続いて本年度2度目の受験で、入学後約9カ月間の英語学習の成果が試されました。また2年生にとっては2年間の英語学習の総決算として位置づけられており、多くの学生が真剣に受験していました。この結果は、1年生では『実践英語B』の成績評価の必須要件（300点以上）および2年進級時の『総合英語』のクラス編成基準として利用されます。また、2年生では『総合英語Ⅱ』（後期）の期末試験の一部として利用されることになっており、学生にとっては疎かにすることのできない重要なデータとなっています。

#### ●外国語部門主催の『英語教育講演会』の開催（11月30日）

外国語部門では、ETS（国際ビジネスコミュニケーション協会）の協力を得て、11月30日に共通教育棟のA20大講義室を会場に、鳥取大学の学生及び教職員を対象として『英語教育講演会』を開催しました。講師は英語トレーニング指導で著名な鹿野晴夫（かのはるお）先生で、『英語学習再考一何のために、どのように英語を学ぶか』という演題で、約1時間半に渡って講演していただきました。

先生は、「英語は、現代のビジネス社会では好むと好まざるにかかわらず習得しなければならない必須のツールである」という前置きから始



めて、効果的な英語学習方法について、ワークショップ形式で参加者を巻き込みながらユーモアたっぷりに説明されました。

この講演会には工学部1年生の6クラスをはじめとして、学生約260名、教職員約30名、合計300人近くが参加しましたが、鹿野先生御自身の体験に基づく興味深い話に参加者全員が大変感銘を受け、次のTOEIC受験に向けて気持ちを新たにしていました。



### ●英語ソフト（CALLのESP指導用）のデモンストラーションの実施（12月26日）

米子キャンパスの医学部医学科では、来年度から英語の授業にCALLを導入することが決定され、そのソフトとしてアルク社のESP（目的別英語）シリーズの『医学英語』が導入されることになりました。これに伴って、他学部も利用できる汎用ソフトを選定するために、アルク社に依頼して12月26日にソフトウェアのデモンストラーションを行いました。当日は、本名理事、井藤理事をはじめとして、e-learningに関心のある先生方も多数参加されました。その結果、後日、医学部以外にも工学部、農学部等でも利

用可能な『ライフサイエンス英語』の購入も決定され、学部生、大学院生へのESP（目的別英語）指導の環境整備が一步前進しました。学生の皆さんの積極的な利用を期待したいと思います。

### ●メキシコ海外実践教育プログラム修了者に対する小論文作成の指導（英語教員）（1月下旬～2月上旬）

メキシコ海外実践教育プログラム修了者（19名）は、帰国後、成果報告の一部として英語の小論文（またはエッセイ）を提出することが義務付けられました。作成期間は1月下旬から2月上旬の間で、外国語部門の英語教員6名が分担して、それぞれ3名の英文の添削・指導を行いました。この小論文・エッセイには学生達がラパス市滞在中に行ったフィールドワークや野外実験の様子、あるいはラパス市における異文化体験など様々な話題が含まれており、これまで、このプログラムに関心の薄かった人達にとっても興味深い読み物となっています。3月までには冊子に纏められると同時に鳥取大学のWeb Pageでも公開される予定です。どうぞご期待ください。

（部門長：筏津成一）

## 健康スポーツ部門の活動

### ●教務関連活動

#### ①アンケート調査の実施

健康スポーツ科学実技の種目選択に関して、学生の受講希望種目の傾向を把握するため、1年生及び2年生以上の学生という2群を調査対象に設定し、調査を実施しました。

#### ②スキー実習安全講習会の実施

10月4、5日にスキー実習（平成24年2月20日～23日：大山ホワイトリゾート）の説明会を実施し、抽選の後に25名の参加者を決定しました。また1月11日には、参加予定の学生を対象として安全講習会を実施しました。

#### ③体力・運動能力テストの実施

文部科学省から依頼のあった1年次女子学生45名の体力・運動能力テストを実施しました。

### ●生活支援関連活動



10月27日～28日に本年度第2回・第3回のトレーニングルーム使用説明会を実施しました。

### ●附属学校園における教育支援活動

#### ①キッズスポーツ アンド スタディサポート (秋期プログラム)

10月19日から12月14日までの計8回、毎週水曜日に活動を実施しました。活動には附属小学校に通う2・3年生の児童23名が参加しました。今年で3年目を迎えた本活動ですが、保護者から継続を求める要望もあり、来年度以降も実施して参りたいと考えています。



#### ②陸上競技教室

附属小学校4年生以上の児童を対象に、5月から9月の水曜日に計12回実施し、30名が参加しました。短距離走、走り幅跳び、ソフトボール投げを取り上げた。学習活動を行い、各種目とも記録の向上、正しい技術の習得が見られました。また、最終回に行った調査では、出席者の96%がこの教室に参加して楽しかったと答えています。



(部門長：福元和行)

### 教職教育部門の活動

### ●教員免許状更新講習の開講

必修講座は、第1回が7月23日～24日に米子会場で149名、第2回が8月8日～9日に鳥取会場で199名、第3回が10月1日～2日に鳥取会場で147名、第4回(最終回)が倉吉会場(鳥取短期大学)で11月12日～13日に129名の参加がありました。選択講座(54講座)も、7月2日から順次開講され、無事に終了しました。

### ●「教職ポートフォリオ」の運営

11月4日「人間と教育—教職入門—」(1年次向け教職必修科目)の授業で、1年生(約150名)を対象に教職ポートフォリオの説明を実施しました。これで、すでに前期に説明が終了している2年生と合わせ、対象となる学生すべてが4年次の「教職実践演習」(教職必修科目)に向けて教職ポートフォリオをスタートさせることとなりました。

### ●介護等体験オリエンテーションの実施

12月16日 12時15分～12時45分、地域学部・工学部1年次生、農学部2年次生を対象に開催しました。(参加者は、地域学部49名、工学部31名、農学部3名、計83名)

### ●「教職実践演習」の授業開発に向けたプロジェクト(学長経費)

8月5日に第3回ワーキング、10月25日に第4回ワーキング、12月22日に第5回ワーキングを開催しました。メンバーは、これまでどおり、教職教育部門教員に加えて、地域学部から山根俊喜教授、小笠原拓准教授にご参加いただきました。4年次後期教職必修科目「教職実践演習」(2013年度開講)の授業開発の具体的検討及び教職関連科目の履修歴調査集計(途中経過)結果の検討を進めました。

### ●教育臨床相談

小林(勝)准教授が以下の活動を行いました。

- ・個別療育(火・水曜日16:00～)——発達障害のある小学生毎月2～3名。8月は夏休みのため中断し9月から再開。
- ・外来相談18件(不登校、自殺念慮、育児不安、発達障害、学習障害、進路、学業不振、親子関係、友人関係、いじめ、虐待)
- ・心理検査17件(DN-CAS、WISC-4、人物画検査、新版K式発達検査、フロスティググ視知覚発達検査、WISC-III知能検査)

・週2回ペースで、事例検討会への参加、啓発活動等（「臨床発達心理士」資格審査委員会作問検討委員会（東京）、「臨床発達心理士」資格・書類審査（東京）、日本臨床発達心理士資格認定委員会面接試験（大阪教育大）、日本臨床発達心理士資格認定委員会、第35回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会障害分科会講師、鳥取市人権委員研修講演、鳥取県いのちの電話相談員公開講座、鳥取市立河原第一小学校「移行支援会議」助言者、八頭町立保育所事例検討会など）

・附属学校への協力（附属特別支援学校教員研修、附属特別支援学校保護者カウンセリング、附属中学校生徒指導委員会助言、附属小学校保護者会「井戸端会議」コーディネーター、附属特別支援学校コンサルテーション、附属中学校1年生全員及び附属特別支援学校専攻科生にエゴグラム（性格検査）を実施）

・10月14日 9時45分～10時、NHKEテレ「道徳ドキュメント」において、附属小学校のピアサポート活動について放映。

・震災支援（「日本発達障害ネットワーク」から派遣要請を受け、9月19日から30日まで南相馬市内の放課後児童クラブ・学校を巡回、「個別支援計画」作成などの心理的業務を遂行）

### ●教職相談

小椋特任教員を中心に、教員志望者に対して、就職活動支援として集団面接（9回、延べ47人）と個別指導4人、教職相談1人を行いました。また、教育実習視察・指導（附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）を実施しました。

### ●地域貢献

大谷准教授を中心に、10月7日に講義「人間と教育」の時間を利用して学校教育ボランティア説明会を開催しました。また、8月6日に、らくがきハウス協力「宮西達也さんワークショップ&講演会」（日南町美術館）が開催されました。12月17日に大学開放事業「遊びのまなび舎～ボードゲームを作ってあそぶ」を開催しました。（参加者26名）

### ●その他

10月14日～15日、日本教育大学協会研究集会（香川大学）に小林（勝）准教授と橋本主任が参加し、教員養成に関わる情勢と中教審における作業報告を受けて、分科会で附属校・学生の研究報告も含め各大学の取り組みについて情報交換を行いました。

（部門長：塩野谷斉）

---

### 教育センター関係教員（○は部門長、\*は兼務教員）

センター長：本名俊正

教育開発部門：○田畑博敏、吉野 公\*、橋本隆司、後藤和雄、井上順子、永松利文、桐山 聡、武田元有

外国語部門：○後津成一、福安勝則、武田修志、サージャント・トレバー、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、  
シャーリー・リー

健康スポーツ部門：○福元和行、上野耕平

教職教育部門：○塩野谷斉\*、小林勝年、柿内真紀、大谷直史

※ 外国語部門、健康スポーツ部門、学生生活支援部門、附属学校連携部門の兼務教員は割愛しています。

---



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電話：0857- 31- 6775（内線2485）

E-mail：[k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp)